

「2015年西安交通大学サマースクール参加報告書」

京都大学文学部3年 石川 雅基

表題のプログラムに於いて私が得た成果等について、報告します。

まず本プログラムにおける学習成果ですが、本プログラムでは中国語を学ぶ授業と、中国文化を学ぶ授業及び見学・体験活動が設けられていて、西安交通大学日本語学科所属の学生ボランティアの支援を受け交流しつつ理解を深めるものでした。私はこれらの活動、特に学生ボランティアや講義を担当された先生方との交流を通じて、積極的にコミュニケーションをとりあい相互理解を目指すこと、そしてそのために必要な言語能力や会話能力を磨くことの重要性を痛感しました。というのも、私たちを支援し交流してくれた学生ボランティアの皆さんは、ほとんどが会話に支障がないほど高いレベルの日本語を習得済みであったのに対し、私の中国語のレベル及び会話における積極性は日常会話も満足にできないほど低いものであったため、一般の中国人に「何を言っているのかわからない」といった顔をされたり、こちらがその人に何と言われているのかわからなかったりする度に、「言葉が通じない」ことの恐ろしさを感じたからです。従って、これからの大学生活では、面倒がらず積極的にコミュニケーションをとること、語学学習に一層励むことを心がけたいと考えています。また、このような短期集中の留学プログラムで都合がつくものがあれば、再び参加し、積極的に現地の人々と交流しその文化を学びたいとも考えています。

次に、滞在先である西安での経験について述べます。西安は中国の古都であり、格子状の街路を持ち多くの遺跡があるなど京都と共通する点が多いですが、一般の現地人は私たちに話しかけてくれることもしばしばで、総じて温かく優しい気性の持ち主でした。また西安交通大からの学生ボランティアの皆さんは、積極的に話しかけてくれたり、スケジュールの取り決めをしてくれたり、文化学習(博物館見学など)や買い物において通訳をしてくれたりと、支援・交流にとっても真剣に取り組んでくれました。

プログラム内容については、多少改善の余地があると考えます。主な問題点としては、そもそも私たち留学生同士が知り合っていない関係であったので現地学生を交えても会話が弾まない場面があったこと、文化学習のための移動が多く2週目には疲労のため私たち留学生の集中力・意欲が低下していたこと、学生ボランティアの日本語能力に比べ私たち留学生の中国語能力(特にリスニング力)が低すぎたため私たちはさほど中国語能力の向上が図れなかったことが挙げられます。

最後に私の進路への影響について述べます。私はもともと航空業界への就職か、教師になることを希望として持っていました。そして今回のプログラムを経て、中国語学習を継続すればその能力を生かせる航空会社に就職できるかもしれないと、若干考えが変わりました。

以上をもって、2015年西安交通大学サマースクールについての私の参加報告とさせていただきます。